

NII研究データ基盤

～即時OA義務化対応からアップデートまで～

国立情報学研究所
オープンサイエンス基盤研究センター

オープンサイエンスを推進する政策により研究者の責務が増加

オープンサイエンス (OS)

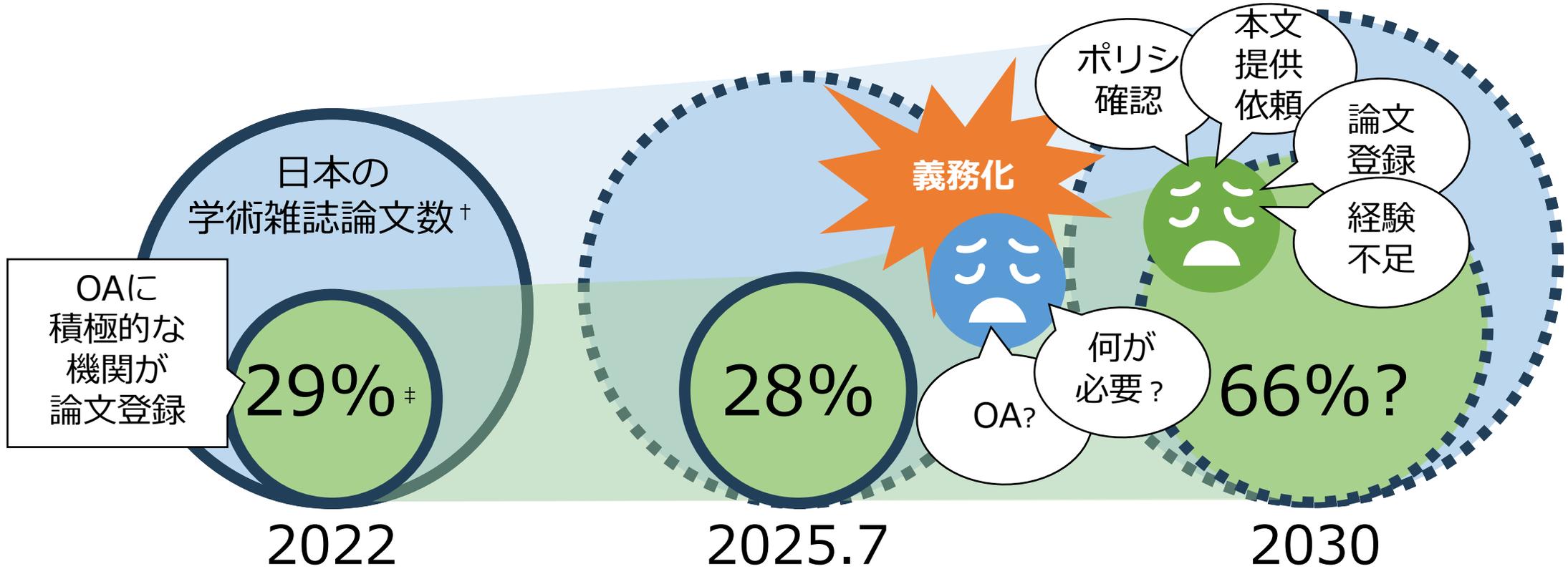
研究データや成果を社会全体で広く共有、活用
研究の透明性や信頼性を高め、分野を越えた協力を促進、イノベーションを加速



⁺ 公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方
[‡] 学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針

義務ではなく、**科学の発展のため**に取り組む課題として世界で協調が進む

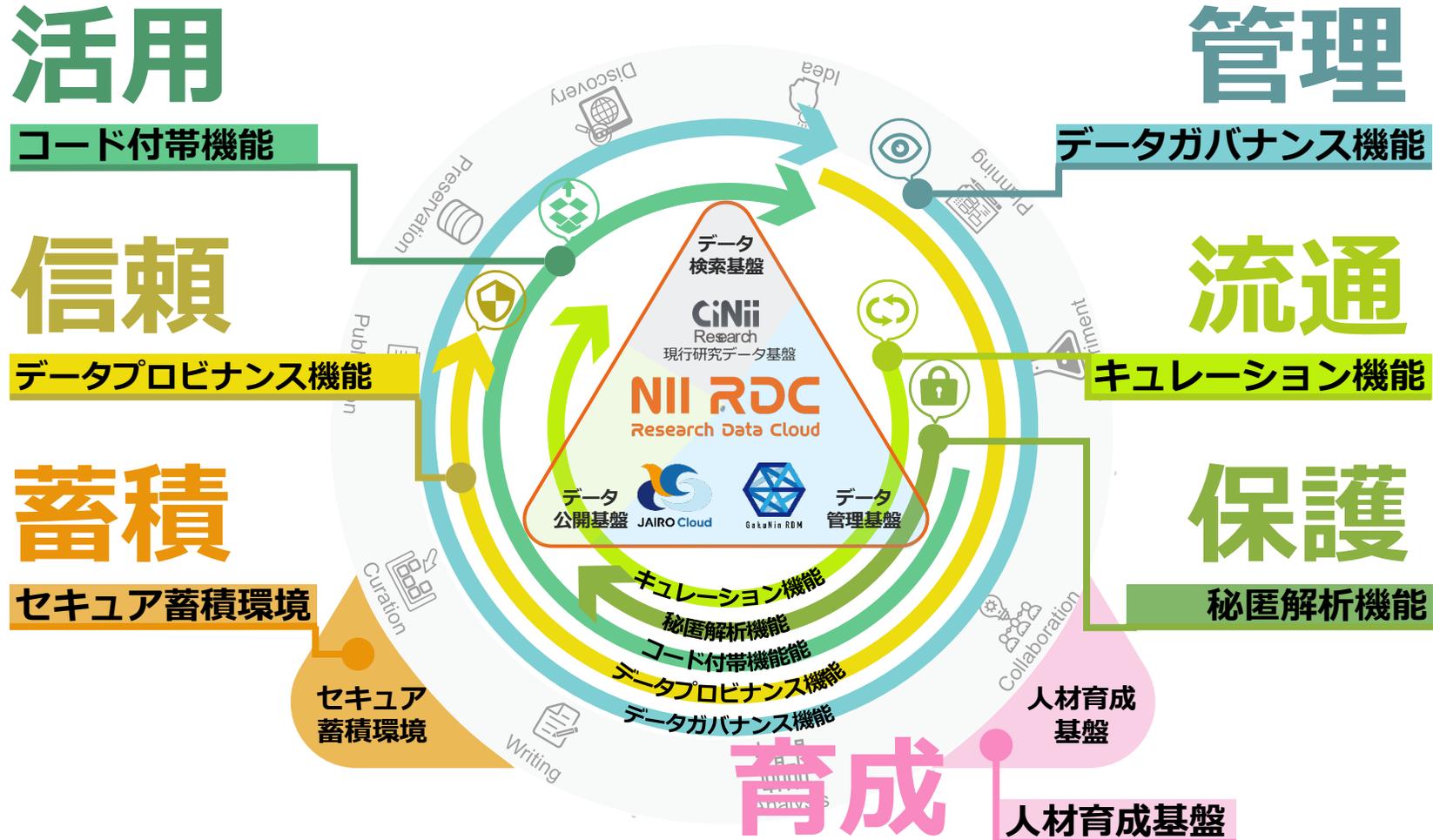
即時OA義務化により登録論文量が増え、機関の業務量も増加



† 科学技術指標2025の統計集「4-1-3 主要国の論文共著形態の推移」の日本の論文数より累積値を作成。2022年以降は直近5年の平均増加量から作成。
‡ NIIが作成するIRDBの統計値より作成。2025.7以降は予測値

大学機関等で即時OA義務化への対応が進む

NII研究データ基盤 (NII RDC)は OSを支えデータ駆動型研究を推進する情報基盤として開発



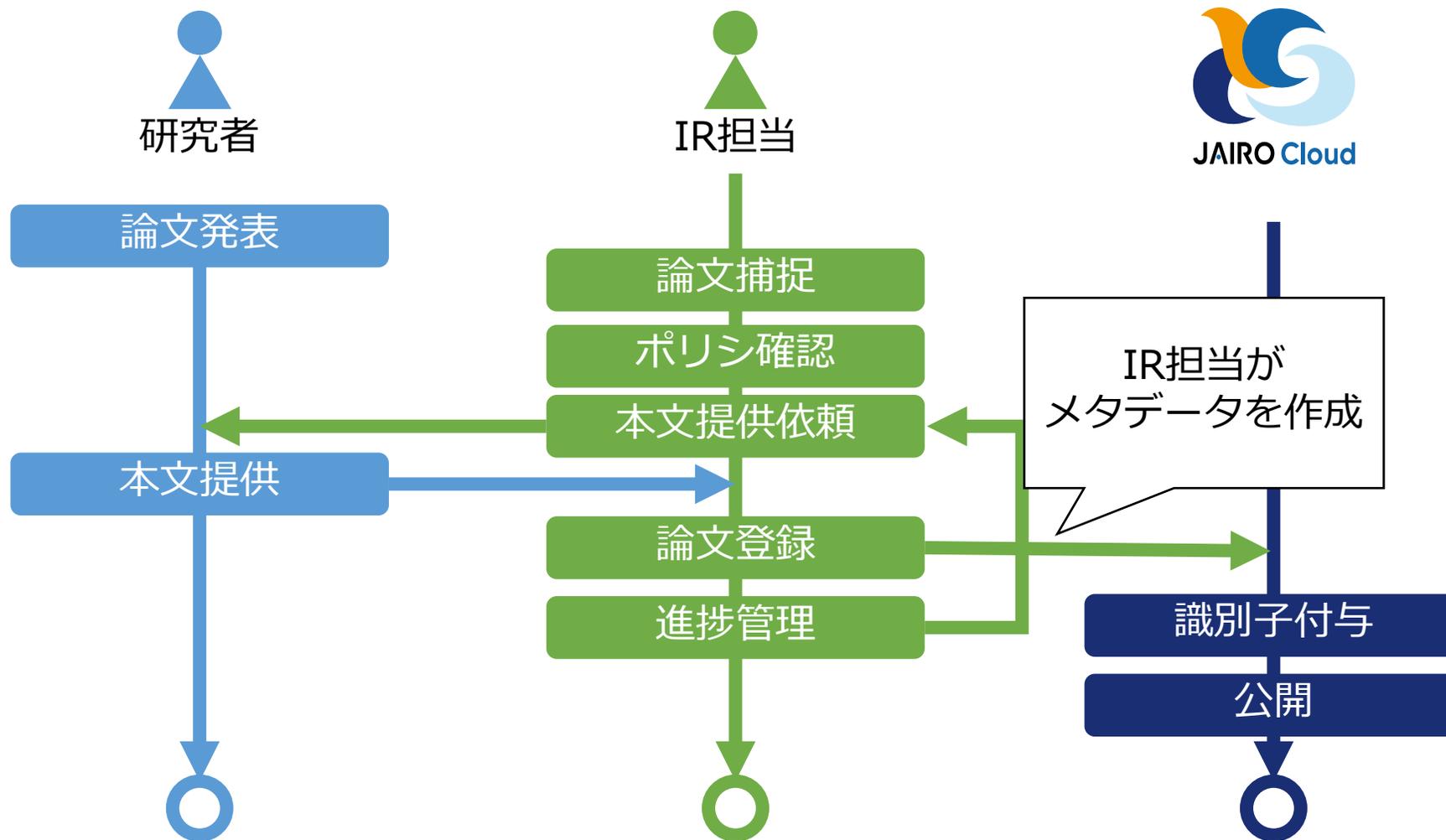
検索、管理、公開の3基盤、7機能によりオープンサイエンスを推進

NII RDCが提供する即時OA義務化対応機能

研究者、機関リポジトリ(IR)担当が
手軽にミスなく論文および根拠データを
機関リポジトリに登録できる
機関としての成果を見せられる

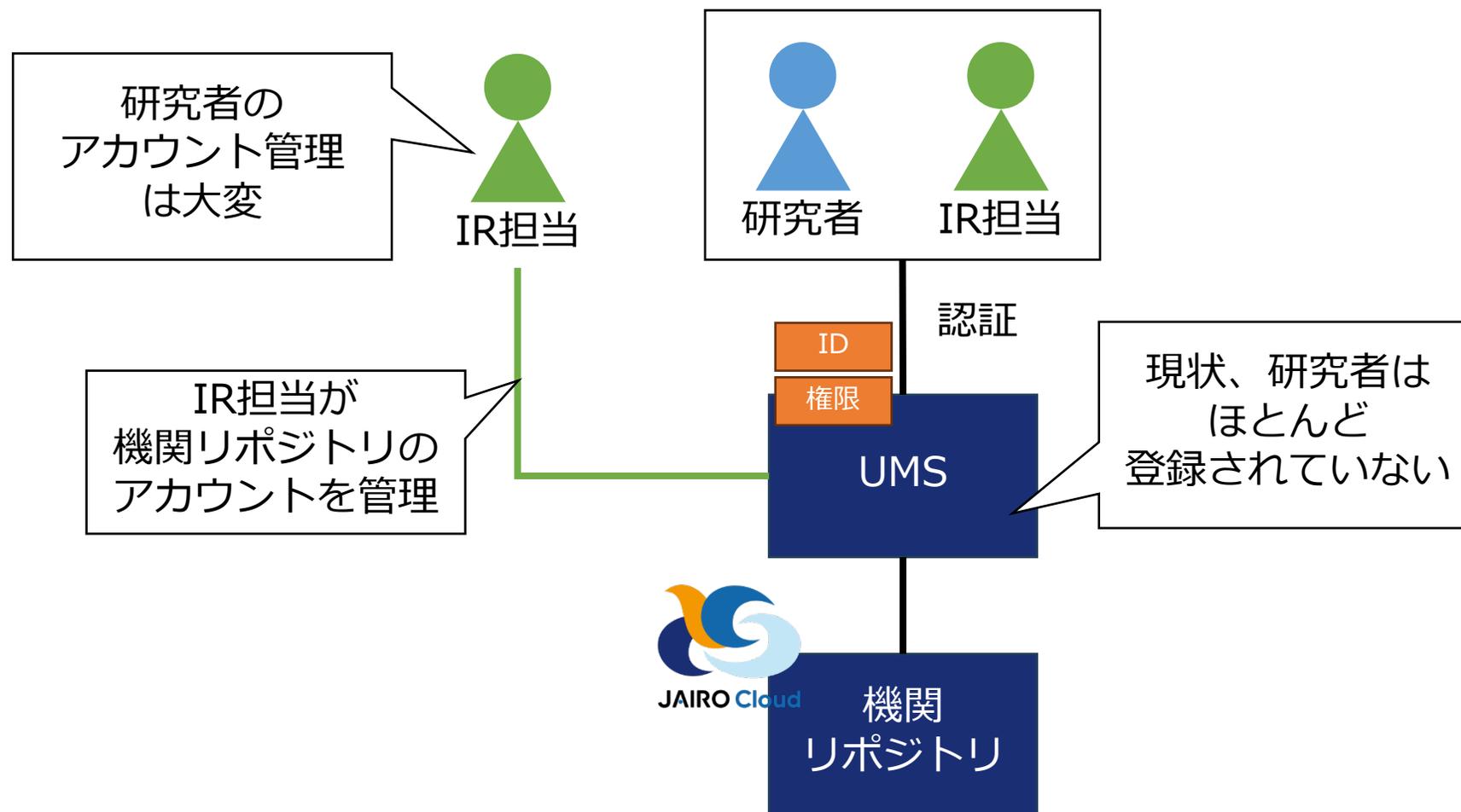


機関リポジトリ担当が論文のOA化を主導



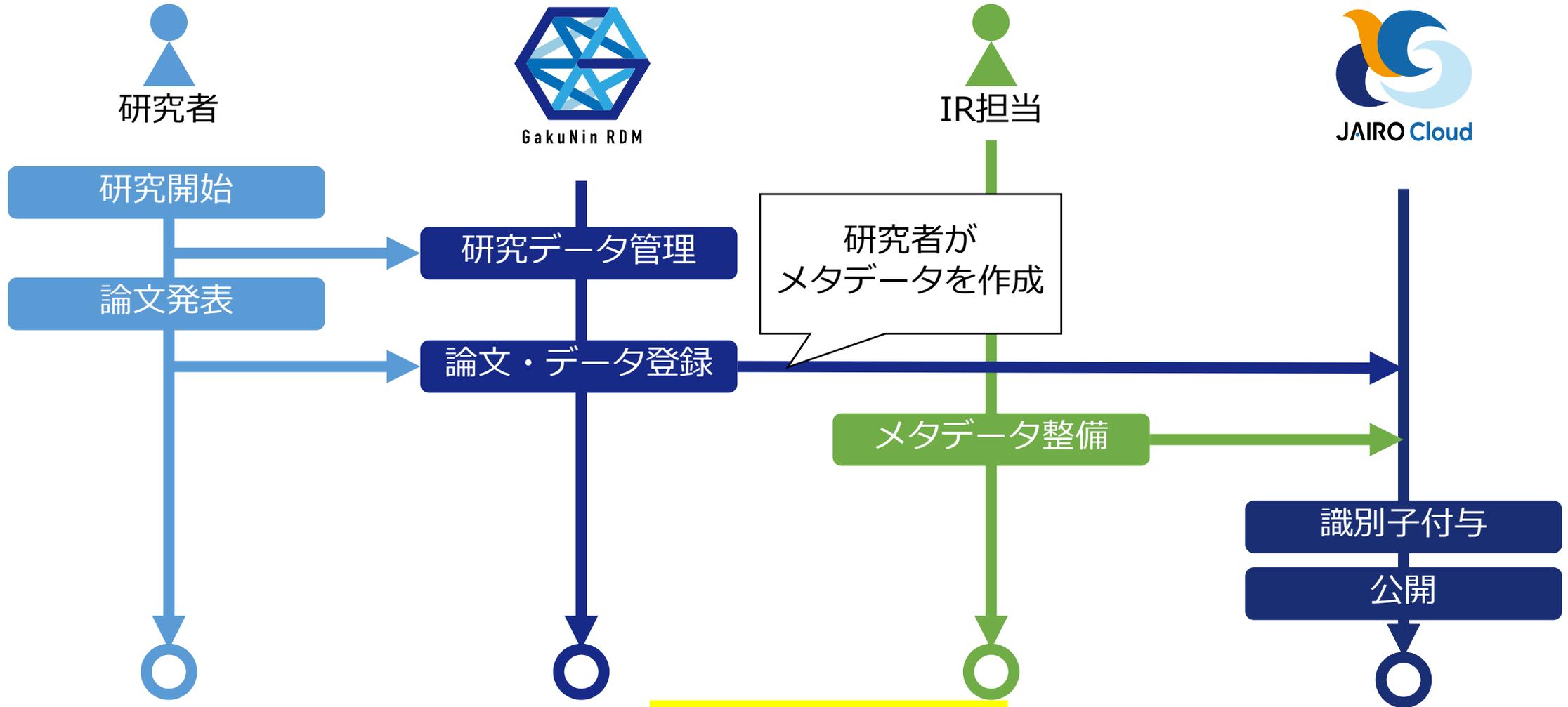
IR担当にOA化業務が集中、
OA義務化により業務量増に不安

研究者によるログイン利用は限定的



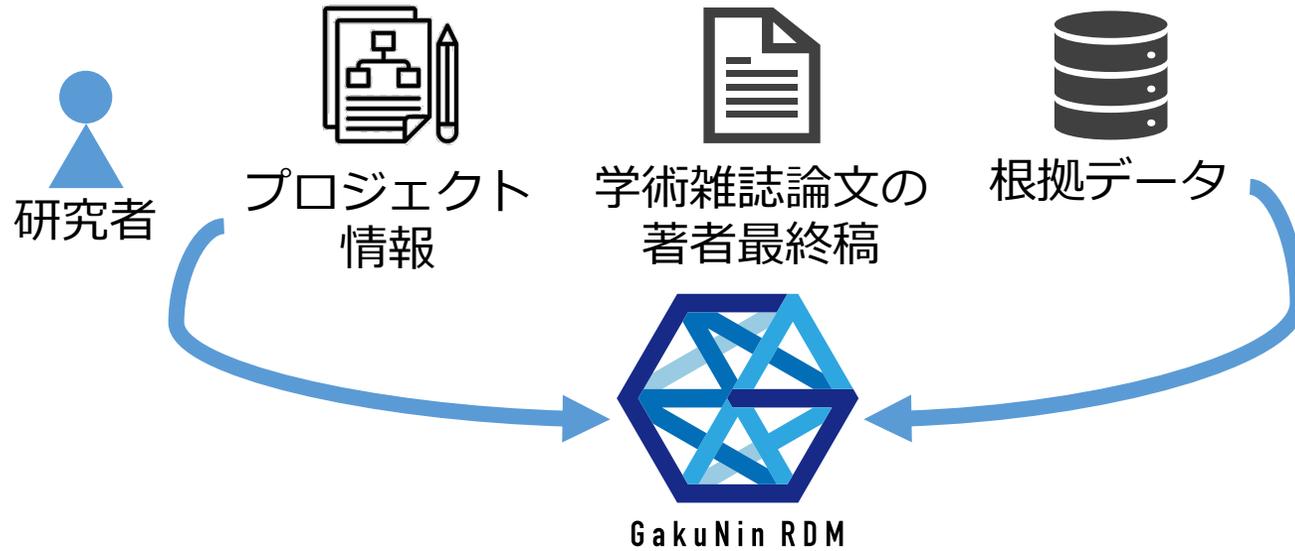
IR担当者が、利用者全員のアカウントを手作業で管理している状況

研究者と機関リポジトリ担当が 分担して論文および根拠データをOA化



誰よりもデータに詳しい**研究者自身に協力してもらうことで、**
公開作業にかかる**時間と手間を大きく軽減**

研究者が研究データを管理し、機関リポジトリに連携



プロジェクト情報のメタデータ (資金情報)

GakuNin RDM 登録画面のスクリーンショット。プロジェクト情報のメタデータ入力欄が中心に写っています。項目には「資金配分機関情報を選択してください。一覧に無い場合は英語略称を記入してください。」「体系的番号におけるプログラム情報コード」「プログラム名 (日本語)」「Program name (English)」などがあります。

論文のメタデータ (タイトル、著者、DOI)

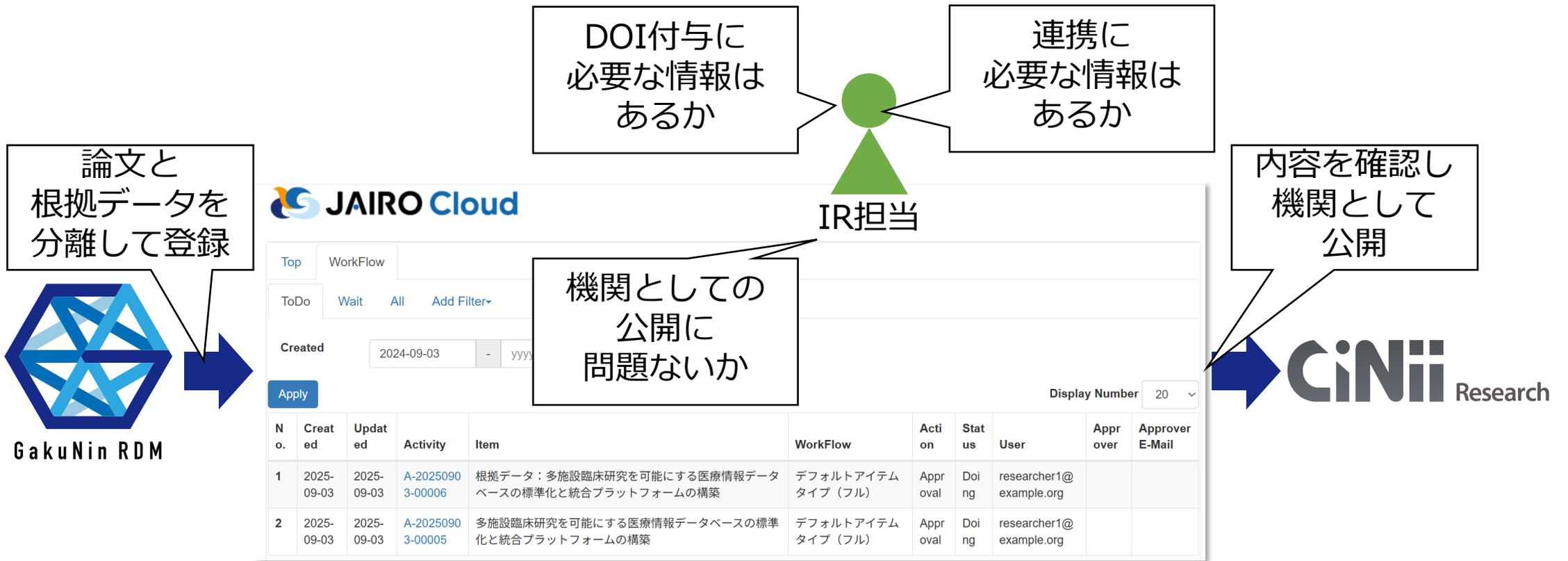
GakuNin RDM 登録画面のスクリーンショット。論文のメタデータ入力欄が中心に写っています。項目には「論文 (出版社) のDOI」「論文の種類」「データの名称または論文表題 (日本語)」などがあります。

根拠データのメタデータ (論文との関係性)

GakuNin RDM 登録画面のスクリーンショット。根拠データのメタデータ入力欄が中心に写っています。項目には「データの名称または論文表題 (日本語)」「Title (English)」「掲載日・掲載更新日」などがあります。

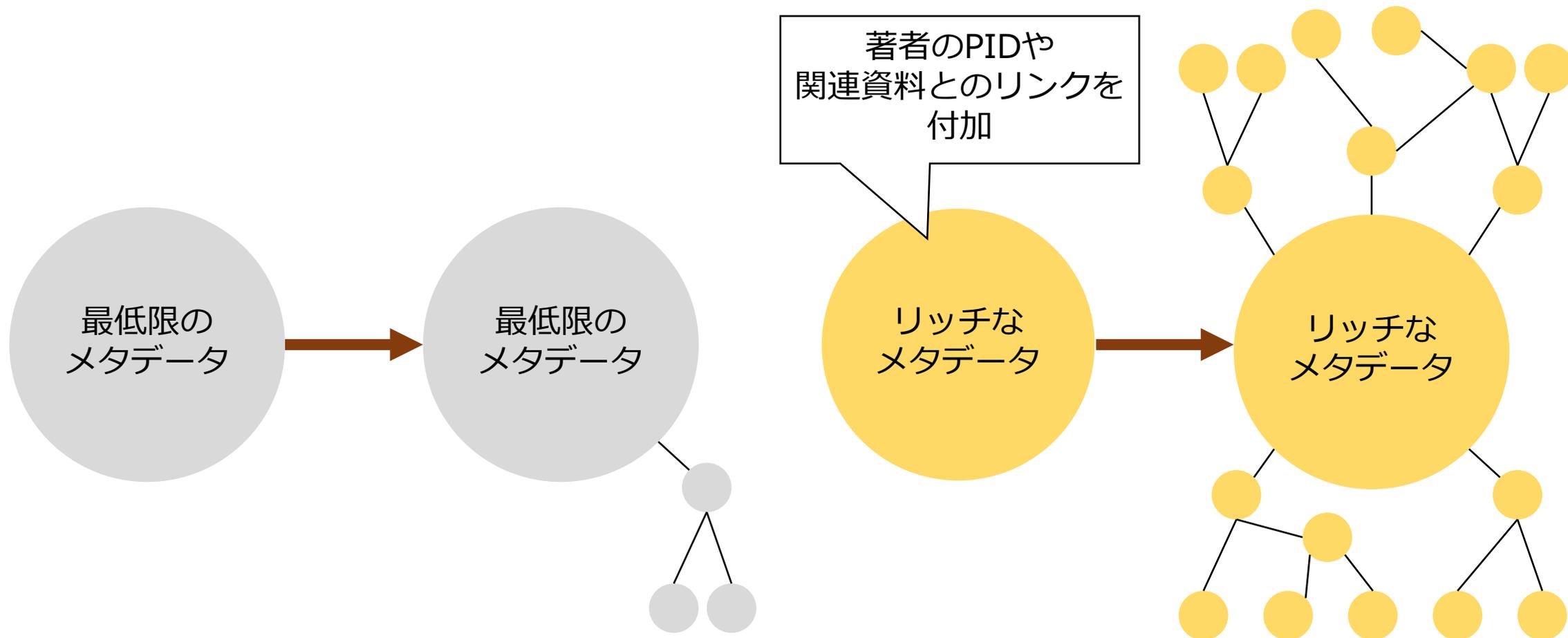
研究成果のことを最も知っている研究者が
基本的なメタデータを登録し機関リポジトリに連携

機関リポジトリ担当がメタデータを整備し、公開



メタデータ流通を最も理解している機関リポジトリ担当が流通や機関として必要なメタデータを整備して公開

メタデータの充実が利活用可能性を拡大



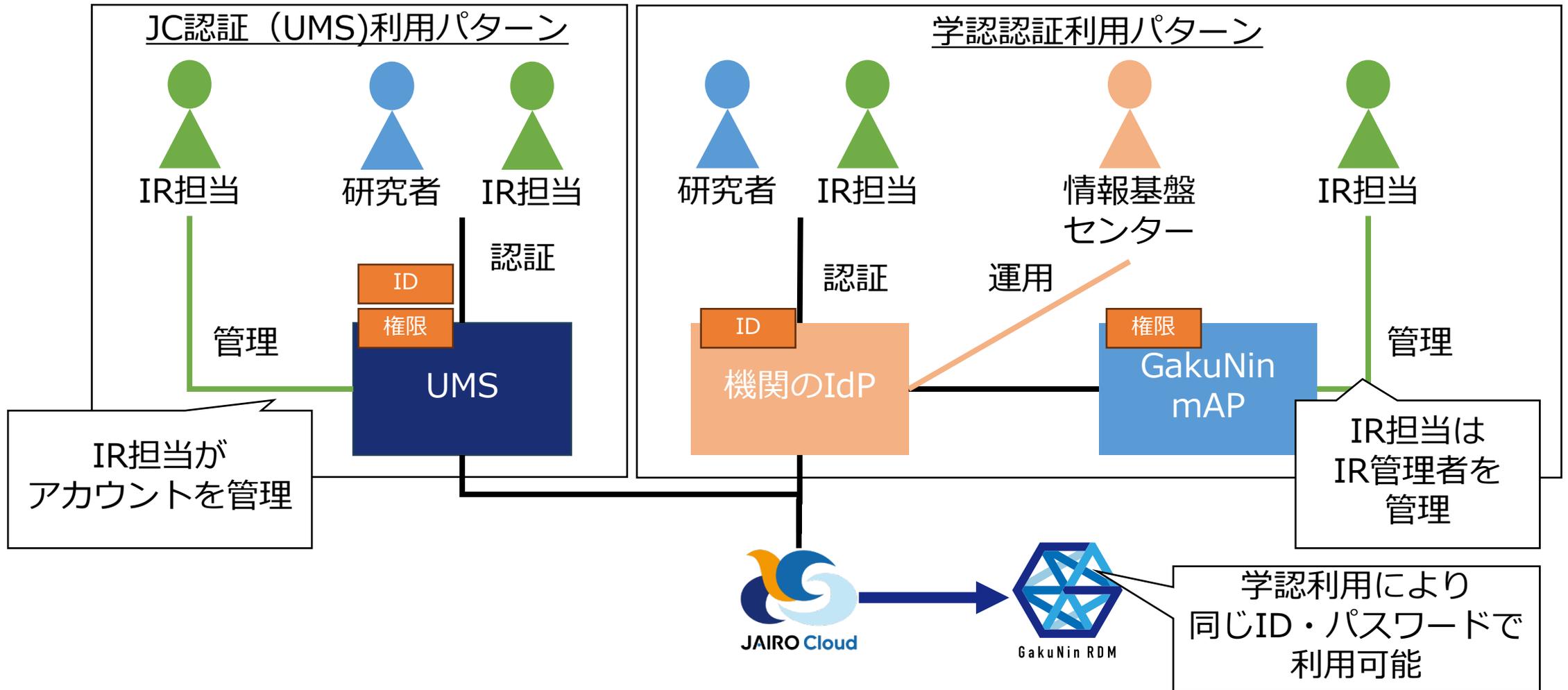
**メタデータの整備は大変労力がかかる仕事だが
研究成果の利活用可能性の向上のための大事な仕事**

研究者が機関リポジトリの登録状況を手軽に把握可能



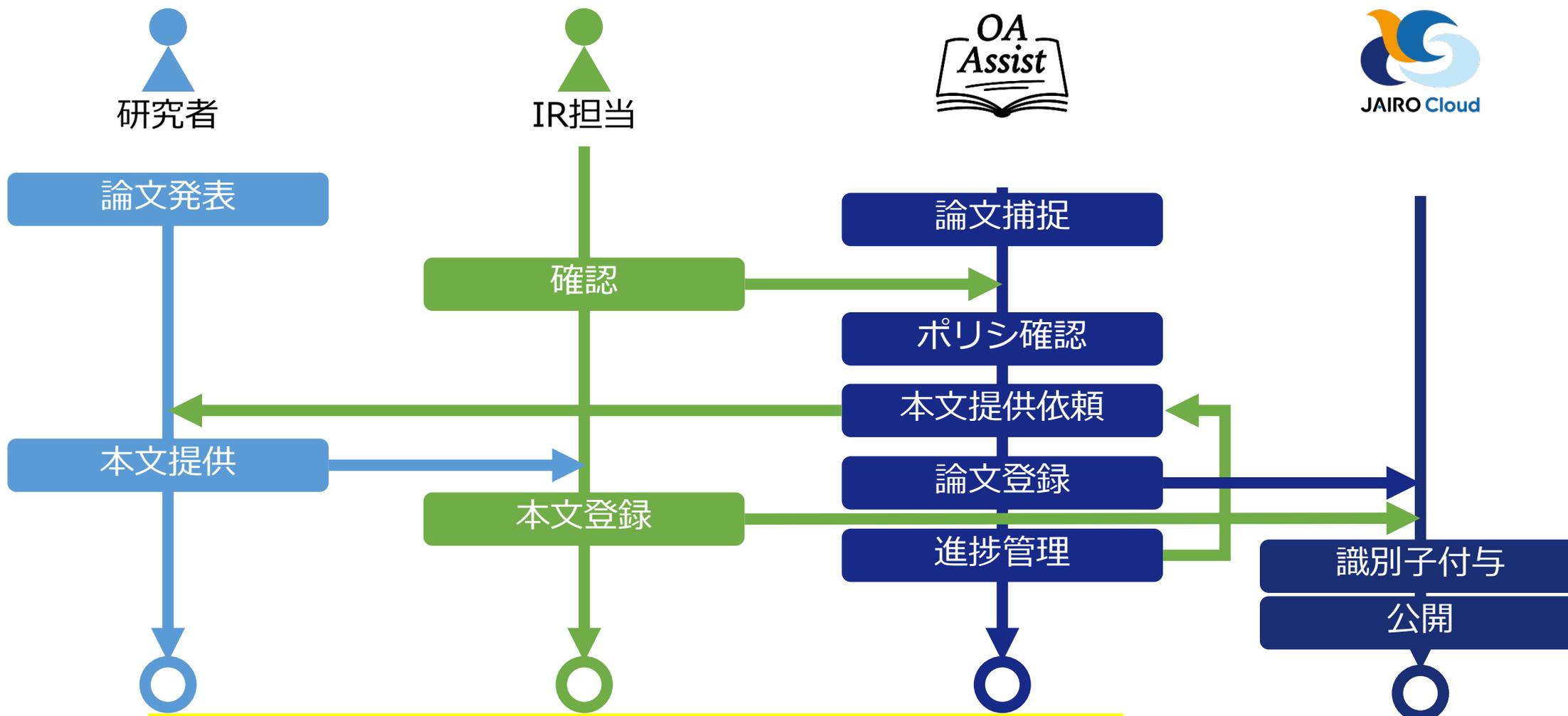
研究者自身が論文および根拠データの登録状況を確認可能

学認利用により IR担当による研究者のアカウント管理が不要に



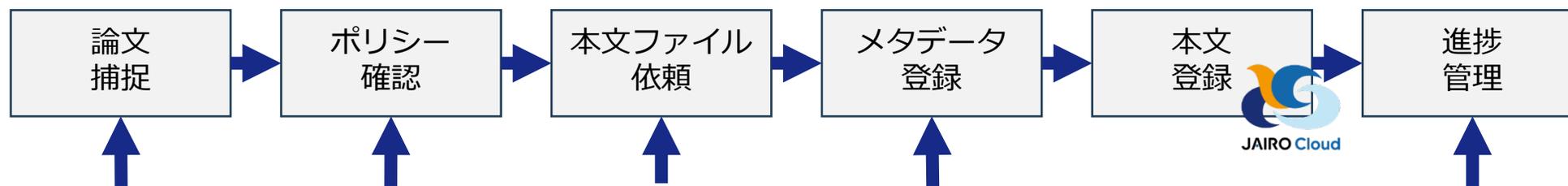
研究者による研究成果登録 (セルフアーカイブ) 検討機関は
学認への参加を是非ご検討ください

機関リポジトリ担当のOA化業務を軽量化

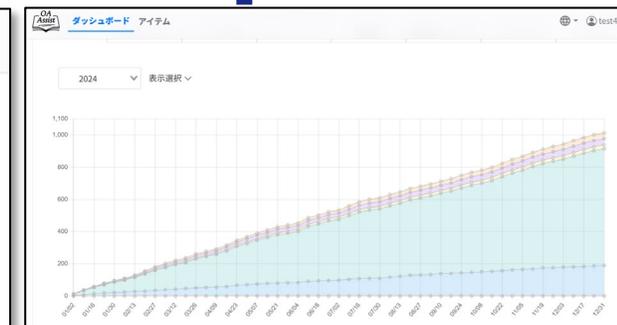


従来のOA路線を継続する機関の業務をサポートする機能を提供

OAアシスト機能は機関の論文のOA化業務を支援



アイテム情報	クローズド	助成	筆頭著者	公開日	ポリシー/査読	ステータス/メモ
<p>Alternating between Surrogate Model Construction and Search for Configurations of an Autonomous Delivery System (Hot off the Press at GECCO 2025)</p> <p>Chin-Hsuan, Sun; Thomas, Laurent; Paolo, Arcaini; Fuyuki, Ishikawa</p> <p>Proceedings of the Genetic and Evolutionary Computation Conference Companion, pp. 75–76 (2025/07/14)</p> <p>Lens / DOI / JAIRO Cloud</p>	☑	☑	☑	2025/08/16	<p>Open Policy Finder</p> <p>SCPJ</p> <p>Policy DB</p> <p>ポリシーFB</p> <p>査読FB</p>	未処理



機関のOA進捗を可視化

OA化業務に必要な作業を1画面に集約
効率的なOA化作業が可能となる機能を提供

OA化業務の進捗状況は機関リポジトリと連動

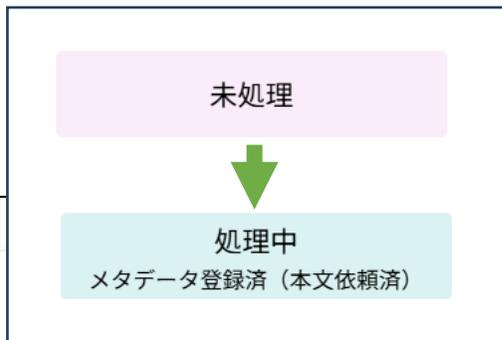


ダッシュボード アイテム

送信 1 ダウンロード 1 一括更新 1

検索

アイテム情報	クローズド	助成	筆頭著者	公開日	ポリシー/査読	ステータス/メモ
<p>Alternating between Surrogate Model Construction and Search for Configurations of an Autonomous Delivery System (Hot off the Press at GECCO 2025)</p> <p>Chin-Hsuan, Sun; Thomas, Laurent; Paolo, Arcaini; Fuyuki, Ishikawa</p> <p>Proceedings of the Genetic and Evolutionary Computation Conference Companion, pp. 75-76 (2025/07/14)</p> <p>Lens / DOI / JAIRO Cloud</p>	✓	✓	✓	2025/08/16	<p>Open Policy Finder</p> <p>SCPJ</p> <p>Policy DB</p> <p>ポリシーFB</p> <p>査読FB</p>	未処理



研究者A

2025

A Study on Improving the Accuracy of Lesion Detection in Medical Images using Deep Learning

情報 太郎

2025-08-17 Document file (1): Published (1), Embargo (0), Restricted (0)

本文依頼中

OAアシストの管理情報、アイテム登録の状態を連携

本文提出をお願いします。ステータスを変更。

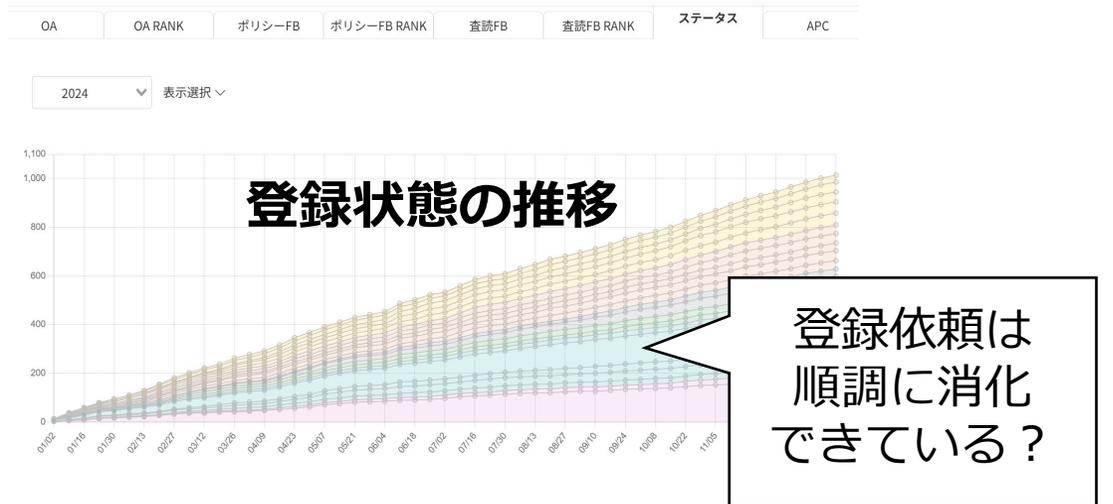


本文未提出の論文はどれだっけ？この論文ですね。



IR担当、研究者によるOA化の進捗状況確認が可能

自機関のOA進捗状況を確認することが可能



機関の進捗状況が一目で確認できるダッシュボード機能を提供
機関のレポート作成にも利用いただけます

まとめ

図書館員が

機関の論文および根拠データを、
機関リポジトリに簡単に登録&公開できる

- 4 OAダッシュボードの機能強化（機関向け、研究者向け）
- 5 OAアシストのメール機能等の強化、APIの開発
- 6 OAアシストのポリシーDBの整備とポリシー確認機能の開発
- 7 機関リポジトリ（JC）でOAコンテンツを分かりやすく見せる機能
- 8 機関リポジトリ（JC）利用機関へのアクセスをモニタリング

政府・機関が

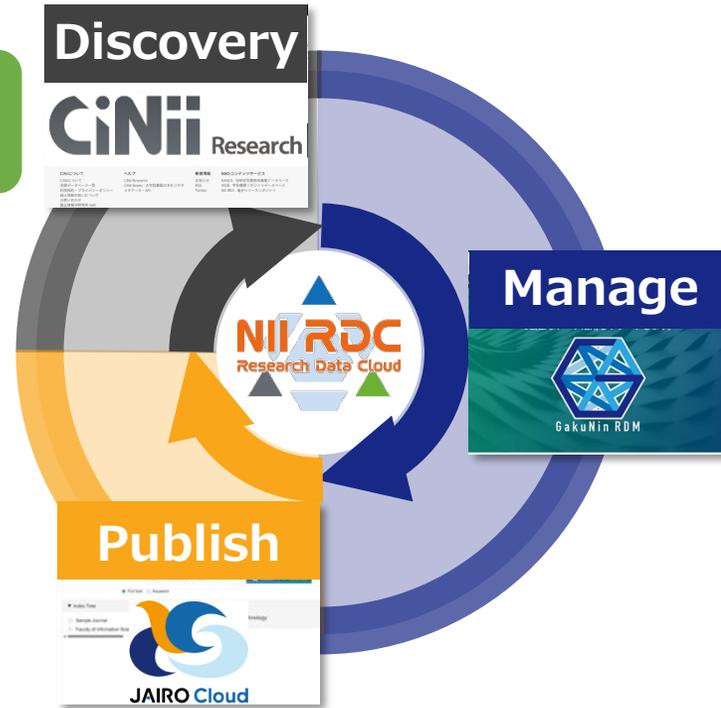
日本のOA加速化の成果が**機関ごと**に確認できるようになる
日本のOS状況がわかる（G7対応含む）

- 9 CiNii Research機関向けダッシュボード
OA論文、研究データ、科研費、国際共著等に関する指標ページ構築
- 10 French Open Science Monitor日本版
（文献メタデータ取込、OA指標算出、表示ウェブアプリケーション）

研究者が

研究PJデータを、自分自身で、
または図書館を介して、
機関リポジトリへ一括登録できる

- 1 データ管理（GRDM）での査読付論文（著者最終）と書誌情報の登録機能の開発
- 2 論文と根拠データを紐づけて、メタデータを機関リポジトリ（JC）へ登録する機能の開発
- 3 論文登録業務プロセスの研究者と図書館の双方の負荷軽減のためのワークフローシステムの開発



年度末のリリースを目指して準備中。

最新情報は、RCOS公式サイト(<https://rcos.nii.ac.jp/>)等で発信していきます。 18

CiNii Researchと即時OA対応

国立情報学研究所 知識コンテンツ科学研究センター



はじめに

- 2024年2月に「**学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針**」が策定され、その「具体的方策」が関係府省により取り決められています
- そこでは、2025年度**新規公募**の競争的研究費を受けた学術論文及び根拠データについて、学術雑誌への掲載後「**即時OA**」とすることを**義務**付けています
- この即時OAでは、「機関リポジトリ等の情報基盤」への学術論文及び根拠データ掲載を経て、「NII研究データ基盤」（NII Research Data Cloud : **NII RDC**）で検索可能となることが重要な位置づけにあります
- 本日はそのNII RDCで、「検索」の役割を担う**CiNii Research**について、「即時OA」に対する対応をご紹介します

NII研究データ基盤 (NII RDC)



- データ管理基盤
 - GakuNin RDM
- データ公開基盤
 - WEKO3 (JAIRO Cloud)
- データ検索基盤
 - CiNii Research

CiNii Research



The screenshot shows the CiNii Research homepage. At the top left is the CiNii logo. Navigation tabs include '論文・データをさがす' (Search for papers/data) and '大学図書館の本をさがす' (Search for books in university libraries). On the top right are links for 'ログイン' (Login) and 'English'. A central announcement states: '【2025年5月12日更新】 CiNii Dissertations及びCiNii BooksのCiNii Researchへの統合について CiNii Researchナレッジグラフ検索機能（試行版）をCiNii Labsにて公開しました 「研究データ」「根拠データ」の収録について'. The main logo 'CiNii Research' is prominently displayed. Below it is a search bar with the placeholder text 'フリーワード' and a '検索' (Search) button. At the bottom, a dark navigation bar contains links for 'すべて' (All), '研究データ' (Research data), '論文' (Papers), '本' (Books), '博士論文' (Theses), and 'プロジェクト' (Projects), along with a '詳細検索' (Advanced search) option.

- 学術論文や研究データ、科研費のプロジェクトなどを検索できます
- 2026年3月末にはCiNii Booksの**統合**も予定されています（※1年間の並行稼働を予定）

CiNiiミッションステートメント

- CiNiiは、日本の学術コミュニティにおける学術資源の利活用を推進するための情報基盤です。
 - 多様な学術資源に関する情報を集約・構造化し、知識検索サービスとして提供します。
 - 学生・研究者・学術機関関係者など、広く学術活動に関わる人々を対象とします。
 - 透明性の高い情報管理を通じて、学術資源に対する信頼の確保に努めます

国立情報学研究所では、この方針に基づいて収録データの拡大や機能の強化を進めております

CiNii Researchにおける即時OA対応

即時OA対応の概略フロー（例）



研究者等による
学術論文や研究
データの登録

登録されたシス
テムからメタ
データを集約

IRDBやKAKEN等か
らのメタデータを
統合し検索・閲覧



 学術論文データ
  研究データ
  プロジェクトデータ
  その他データ

研究データの詳細画面表示のイメージ

Cinii 論文・データをさがす 大学図書館の本をさがす

Research data recording data loss during availability verification of communication protocol
▲▲

機関リポジトリ 外部サービスB 外部サービスC 外部サービスD 外部サービスE > すべて表示

情報 太郎 作成者 ○○大学 寄与者 ○○大学学術支援課 寄与者

メタデータ

公開日	2025-03-13
利用開始日 (公開予定日)	2025-03-13
最終更新日	2025-05-02
データの分野	情報通信 (Informatics)
資源種別	データセット (dataset)
データNo.	RDT1234567890
サイズ	7MB
フォーマット	application/x-zip-compressed
権利情報	Creative Commons CC0 1.0 Universal (CC0 1.0) Public Domain Dedication
アクセス権	公開
リポジトリ	○○大学リポジトリ
URLリンク	http://hdl.handle.net/example/12345
DOI	10.XX999/example.dc.478706
公開者	○○大学
データ作成者 (e-Rad)	情報 太郎 (12345X)
データ管理機関	○○大学
データ管理者 (e-Rad)	○○大学学術支援課
連絡担当者 (データ管理者の連絡先)	example@example.ac.jp

説明

通信プロトコル▲▲の可用性検証時のデータ損失を記録した研究データ。時間軸を起点として、複数ノードにおける……………

メタデータ

公開日	2025-03-13
利用開始日 (公開予定日)	2025-03-13
最終更新日	2025-05-02
データの分野	情報通信 (Informatics)
資源種別	データセット (dataset)
データNo.	RDT1234567890
サイズ	7MB
フォーマット	application/x-zip-compressed
権利情報	Creative Commons CC0 1.0 Universal (CC0 1.0)
アクセス権	公開
リポジトリ	○○大学リポジトリ
URLリンク	http://hdl.handle.net/example/12345
DOI	10.XX999/example.dc.478706
公開者	○○大学
データ作成者 (e-Rad)	情報 太郎 (12345X)
データ管理機関	○○大学
データ管理者 (e-Rad)	○○大学学術支援課
連絡担当者 (データ管理者の連絡先)	example@example.ac.jp

「「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」における**メタデータの共通項目**」
(https://www8.cao.go.jp/cstp/common_metadata_elements.pdf) に対応しています

KAKENから収集されるメタデータの拡充



- 現行の「学術論文データ」に加え「**研究データ**」に該当するメタデータを収集し、CiNii Researchで検索可能にする**予定です**
 - ▶これによりIRDBに搭載されていない、即時OA対象の「研究データ」を捕捉できる可能性が高まります

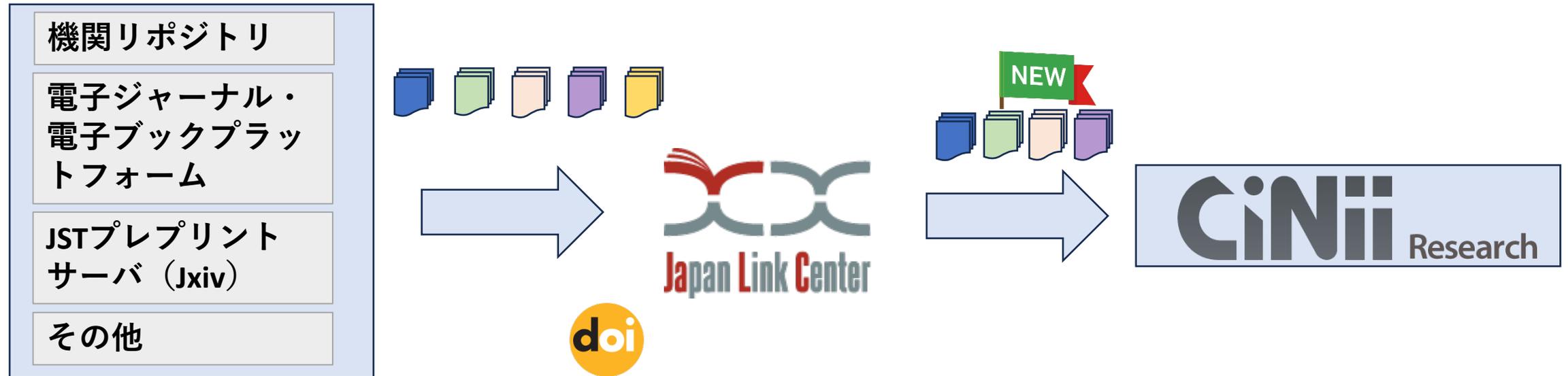
JaLCから収集されるメタデータの拡充



 学術論文データ
  プレプリントデータ
  研究データ
  プロジェクトデータ
  その他データ

- JaLC（ジャルク：ジャパンリンクセンター）は、DOI（デジタルオブジェクト識別子）を登録、管理する機関の一つです
 - 電子化された学術論文や研究データのメタデータを幅広く集約し、DOIを付与することで**恒久的**なアクセスを保証しています

JaLCから収集されるメタデータの拡充



 学術論文データ
  プレプリントデータ
  研究データ
  プロジェクトデータ
  その他データ

- CiNii Researchでは、JaLCが集約したメタデータのうち、資源タイプ (resource type) が**プレプリント (preprint)** とされるものの取り込みを可能にする**予定です**
 - これにより、JST (科学技術振興機構) のプレプリントサーバである**Jxiv (ジェイカイク)** で公開されたOAデータが検索可能となります
 - 何らかの理由で機関リポジトリが**利用できない**研究者であっても即時OAを実現することができるようになります

即時OA状況のモニタリング機能の実装

CiNii Research機関向けダッシュボード

- CiNii Researchでは、機関における研究活動や研究成果物の現況を**可視化**するプラットフォームを提供しています
- 現在は試用版ですが、このプラットフォームを用いることで、機関における即時OA状況を**モニタリング**することができます



オープンアクセス状況の確認画面 (例)



モニタリングのメリット

- 日本国内の研究成果物を対象に、自機関の**即時OA対応の現況**や、その他の研究成果物のOA化の進展などを客観的に**把握**できます
- これらの客観的データは、各機関における即時OA対応を加速するための戦略の策定や研究力向上のための方策などを検討する際に**エビデンス**として活用できます

試用版の利用申込について

CiNii Research機関向けダッシュボード 試用版利用申込

国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センターは、オープンサイエンスモニタリング・研究評価支援を目的として、CiNii Research機関向けダッシュボードの開発を行っており、その試用版の利用者を募集しています。

試用版の利用をご希望される場合は、本フォームよりお申込ください。

なお、試用版を利用いただくには以下の条件全てを満たす必要があります。

1. 「CiNii Research機関向けダッシュボード試用版利用の申し合わせ」に同意する
(質問1参照)
2. 所属機関がCiNii Researchの機関利用者である

2については、ご入力いただいた所属機関（質問3）をもとに担当者のほうで確認させていただき、試用版の利用可否について回答させていただきます。

ご質問・ご不明な点等ございましたら、遠慮なく以下までご連絡ください。

CiNii Research機関向けダッシュボード担当 osm_support@nii.ac.jp

- 試用版の**利用申請**は以下のURLからお願いいたします

➤ <https://forms.gle/o7XMrkVAAMqbzrmp8>

CiNii Researchにおける収録コンテンツ の拡大の取り組み—OAの視点から

IRDBから収集されるメタデータの拡充



- 今後IRDBから収集するメタデータの種類が拡張される**予定です**
 - 図書やさまざまな報告書なども検索対象となります

(参考) IRDBの資源タイプと現状の収集状況

aggregated data	conference presentation	genomic data	map	plant patent	software patent	workflow
article	conference proceedings	geospatial data	master thesis	plant variety protection	sound	working paper
bachelor thesis	data management plan	image	measurement and test data	policy report	source code	
book	data paper	industrial design	moving image	recorded data	still image	
book part	dataset	interactive resource	musical notation	report	survey data	
cartographic material	departmental bulletin paper	journal	newspaper	research proposal	technical documentation	
clinical trial data	design	journal article	observational data	research protocol	technical report	
commentary	design patent	laboratory notebook	other	research report	thesis	
compiled data	doctoral thesis	layout design	other periodical	review article	trademark	
conference output	editorial	learning object	patent	simulation data	transcription	
conference paper	encoded data	lecture	PCT application	software	utility model	
conference poster	experimental data	manuscript	peer review	software paper	video	

学術論文データ
 研究データ
 学位論文・博士論文データ

OpenAIREからのメタデータ収集

- OpenAIRE（オープンエア）はOA出版物を収集・提供する、国際的な**欧州連合**が支援するプラットフォームです
- OpenAIREでは、欧州を中心とした機関リポジトリやOAジャーナルのメタデータに加え、DOIの登録・管理機関の一つであるDataCite（データサイト）由来のメタデータを集約しています
- CiNii Researchでは、OpenAIREのメタデータのうち「**日本**」の研究者に関わるものを検索できるよう**対応しました**
 - これにより、日本人研究者の**海外の助成機関**に由来する研究成果や**OAジャーナル**のコンテンツなどを効率的に捕捉できるようになりました

CiNii Researchのデータ品質向上を目指して

データ品質向上への意識的対応

- CiNii Researchのデータについては、**随時**データ品質の向上を意識した対応を行っております
 - 例：一部の「プレプリント」のDOIとして「出版社版」のDOIが表示されていた問題を修正
 - 例：一部の博士論文のメタデータの「学位授与年月日」が「授与年」のみとなっていた問題を修正

何かあればご報告ください

検索結果： 299 件

すべて選択： 論文情報の修正 ▼ 実行

新しいウィンドウで開く

書き出し

RefWorksに書き出し

EndNoteに書き出し

Mendeleyに書き出し

RDFで書き出し

Refer/BibIXで表示

RISで表示

BibTeXで表示

TSVで表示

CSVで表示

JSON-LDで表示

問題の指摘

同一論文である

論文情報の修正

その他

 [論文] 近
松山, 由布
...本書には
ことが推奨
現が用いら
る。...
機関リポ

 古代中
沈, 雪艶 愛
機関リポ

 東京国立
黄銅（鍮石・真鍮）の歴史と伝米の道「Brass Road

- CiNii Researchではデータの統合や修正についてのご指摘を「**修正指摘画面**」にて受け付けています
- 詳しくは以下のURLをご確認ください
 - https://support.nii.ac.jp/ja/cir/manual_feedback

ご清聴ありがとうございました

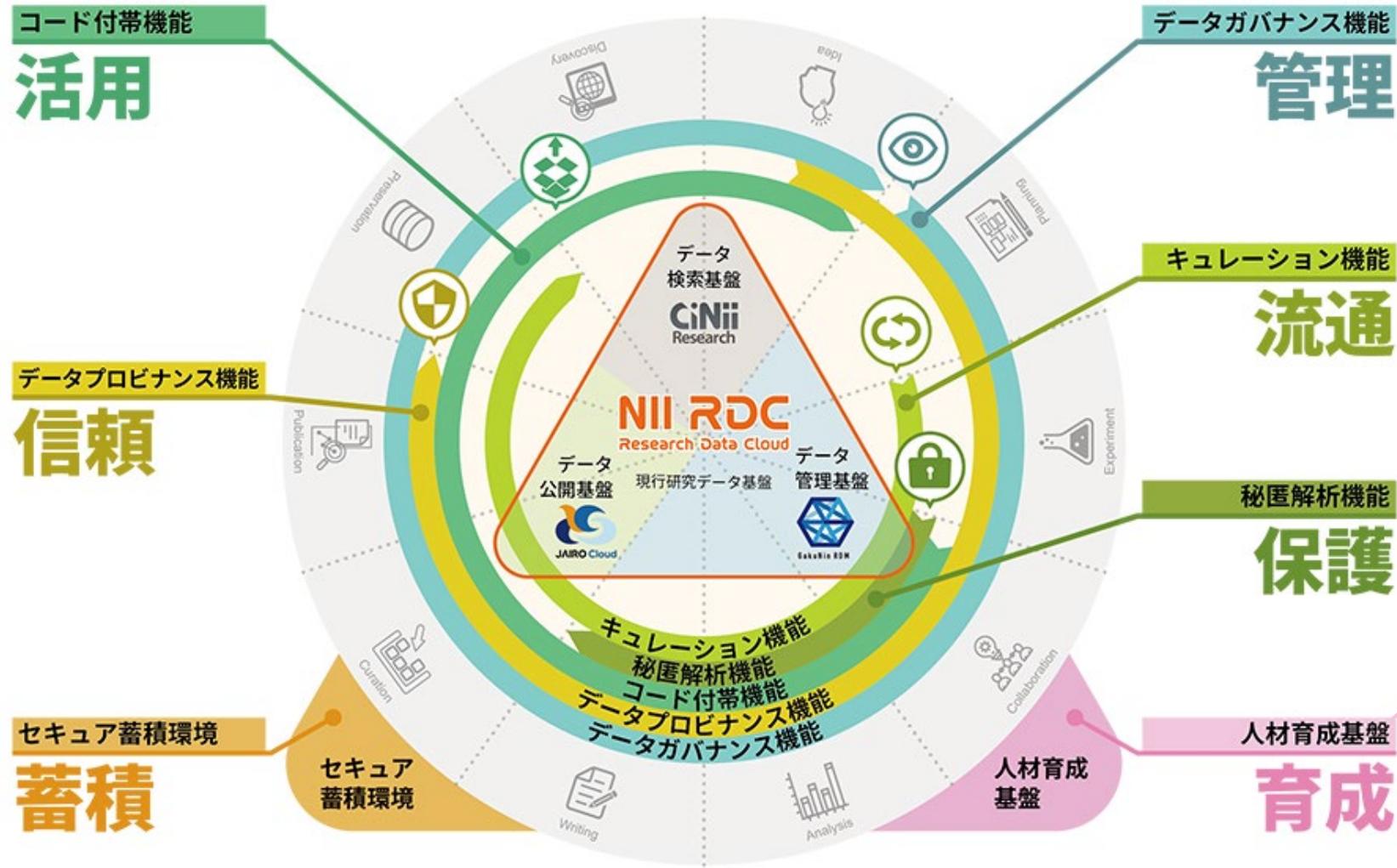
学認LMS新コースの紹介

2025.9.18@名古屋

2025.10.15@大阪

2025.10.31@東京

国立情報学研究所 研究データ基盤整備チーム





高等教育機関における共通の教育コンテンツと受講履歴を提供する
学習管理システム（2021年6月14日正式運用開始）

研究データ管理講座

研究データ管理について、研究者向け、支援者向けなど様々な観点から学ぶことができる。
現在は**6コース**提供されている。



画像は一例

情報セキュリティ講座

基本的なセキュリティ知識について、4か国語(日・英・中・韓)で学ぶことができる。



研究データ管理講座

- オープンサイエンス時代における研究データマネジメント基礎
- **GakuNin RDM利用支援コース：研究室編**
- GakuNin RDM利用支援コース
- 研究データ管理サービスの設計と実践[2022年度版]
- 研究者のための研究データマネジメント[2022年度版]
- 情報基盤スタッフ向けの研究データマネジメント



オープンサイエンス時代における
研究データマネジメント基礎

[ReadMore >](#)



GakuNin RDM利用支援コース：
研究室編

[ReadMore >](#)

オープンサイエンス時代における研究データマネジメント基礎

研究データには、どのように生成され、保存され、最終的に再利用されていくのかといったライフサイクルがあります。

このコースでは、研究データのライフサイクルに沿った形で、サービス設計や研究前の支援、研究中の支援、研究後の支援、そして日常的な支援について学ぶことができます。

研究データマネジメントについて基礎から学びたい方におすすめです。



1. 研究データマネジメントを知る
2. 研究データポリシーと関係規程等
3. 研究データ管理計画（DMP）
4. 研究データの取得・収集および保存・共有
5. 研究データを公開する
6. 研究データを利活用する
7. 研究データ基盤・連携の紹介

GakuNin RDM利用支援コース：研究室編

研究データ管理基盤GakuNin RDMを研究室で利用する方で、ご自身の研究活動にあわせた基本的な操作をできるようになりたい方におすすめです。

研究室の年間活動を想定した4つの項目で構成されています。



- A. 研究室におけるGakuNin RDMの活用
(基本)
- B. 研究開始時におけるGakuNin RDMの活用
- C. 研究遂行中におけるGakuNin RDMの活用
- D. 研究終了と引継ぎにおけるGakuNin RDMの活用

・学認LMS申込方法については下記をご覧ください。

・学認LMS申込方法のご案内

・学認LMSユーザサポートサイト

(QRコードからYouTubeにアクセス可能です)



問合せ先

学認LMSサポート担当（国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課）

gakunin-lms-support@nii.ac.jp